＊＊＊　今 日 の 健 康（7月）＊＊＊

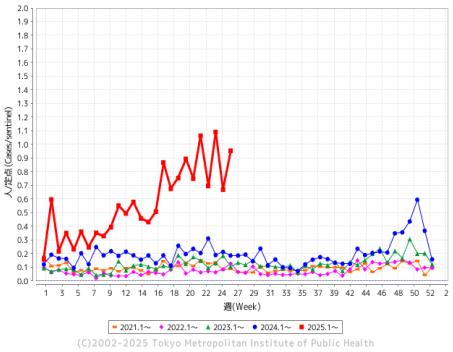
＜ 水痘の流行 2025 ＞

東京都は注意報基準（定点医療機関当たり 1 人）を 2 週続けて下回った水痘（みずぼうそう）に対して注意喚起を続けており、7 月 3 日に公表した第 26 週（6 月 23－29 日）のデータによると、定点医療機関当たりの報告数は前週比 41.8%増の 0.95 人ですが注意報を解除していません。

2025 年は第 17 週（4 月 21－27 日）から第 19 週（5 月 5－11 日）、第 22 週（5 月 26 日－6 月 1 日）に注意報が出され、さらに第 24 週に 3 度目の注意報が出されています。

直近第 26 週の保健所別では多摩立川が 27 人の最多で、次いで文京区 26 人、町田市 24 人、北区 17 人となっています。武蔵野市が属する多摩府中管轄は 16 人でした。

東京都感染症情報センターのデータでは、図のように例年になく水痘患者さんの報告数が増えています。



水痘について：水痘は水痘 - 帯状疱疹ウイルス（varicella zoster virus：VZV）による感染症で、一般には「みずぼうそう」として知られています。2～10 才の小児によく見られる疾患です。

感染経路：患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる感染（飛沫感染・空気感染）、あるいは、水疱や粘膜の排出物に接触することによる感染（接触感染）があります。発しん出現の 1～2 日前からすべての水疱が痂皮化するまで感染性があります。

潜伏期間：約 14 日です。

症状：水疱（水ぶくれ）と 38℃前後の発熱で、全身に直径 3～5㎜ 程度の丘疹（盛り上がった赤い発しん）が出現します。水痘ワクチンの定期予防接種化に伴い典型的な水疱症状を診る機会は減少し、ある程度の抗体価を保持している場合は、蚊にさされたように見える数個の小発しんだけの場合もあります。

典型例では全身に数日にわたり新しい発しんが次々と出現し、急性期には紅斑、丘疹、水疱、痂皮（かさぶた）のそれぞれの段階の発しんが混在するのが特徴です。すべての発しんが痂皮化するまで 6 日程度かかります。

免疫：水痘は軽症でも終生免疫（一度の感染で生涯、その感染症にはかからない）を得ることとされています。しかしながら一定以上の抗体価を獲得しないと何回か感染後に発症します。

合併症：成人では重症になることがあり、髄膜炎や脳炎などの合併症の頻度も高くなります。またウイルスは治癒後も体の中に潜伏していて、何年も経過してから「帯状疱疹」として再発することがあります。

治療：治療には抗ウイルス薬（アシクロビル、バラシクロビル、ファムシクロビルなど）を使用します。

予防：2014 年 10 月 1 日から小児では水痘ワクチンが定期接種となりました。水痘患者に接触した場合でも、3 日以内にワクチンを接種すれば 80%から 90%発病を予防でき、家族内感染の予防や施設内感染の防止に有効とされています。また、発症した場合でも症状の軽減化が期待できます。

前澤クリニック　内科・小児科　０４２２－３０－２８６１
天文台通り　もみじ山公園バス停裏